

1. プロジェクト研究テーマと内容

過去 20 年間、国際協力レジームは変容してきた。かつて経済協力開発機構（OECD）諸国、すなわち先進国の政府開発援助（ODA）中心の南北援助体制が内外からの刺激を受けている。一方では、「開発援助」の見方が変わり、2013 年に OECD の開発援助委員会（DAC）ODA の定義自体を一部改正した。改正により政府中心の援助政策から官民開発協力への「パートナーシップ」の動向が加速しつつある。もう一方、ODA を受ける資格から「卒業」するアジア・ラテンアメリカ・カリブ諸国が増えて、その中から「新興ドナー」、すなわち開発援助を贈与する中高所得国が注目を浴びる。同時に、NGO、企業による CSR などの民間組織による「民間開発援助」は増加している。こうした中で、開発援助は何か、だれのためにあるか、公共部門が主役するか、民間団体が主役するか、それぞれの点が再検討されている。

本ゼミでは、2022 年において日本の開発援助政策と国際協力の研究に取り組む。本プロジェクト研究は 2 つの研究目的をもっている。第一は国際社会・政治における ODA のさまざまな活動を研究して、その優位性と問題点を考えることである。第二は ODA 機関、国連等国際機関と ODA の援助活動、NGO と ODA の関係、そしてその課題を考察することである。

2. プロジェクト研究の進め方

本プロジェクト研究では開発援助についての基本研究を行い、基本文献の分析、データ収集、及びプレゼンテーション技術を高めることを基本方針としている。文献・資料の分析能力を高めるために実用的英語力を強化することも目指す。2022 年度の 3 年次ゼミは PBL 型共同研究を実施し、4 年次は卒業論文の研究および作成を実施する。尚、3 年次の共同著書と 4 年次の卒業論文は英語で書く予定。

国際協力の現実をより把握するために、JICA 中部の訪問と国際海岸清掃活動（International Coastal Cleanup）への参加を予定している。

3. 前提科目と関連科目

関連科目として国際政策論、非営利組織論、経済援助論、Academic Path English の履修が望ましい。

3年次には共同研究を行うため、「総合演習 B」(担当: Potter) を Q2 に履修すること。Q2 の留学を予定する学生は事前に相談すること。

コース選択については、基本的に国際政策コースが望ましいが、他のコースを選択してもかまわない。

4. 開始までの準備

「3.」に挙げている科目で使用する教科書は必ず読んでおくこと。また、ODA、NGO の入門書も読んでおくことが望ましい。

5. その他

- 1) 研究と発表は英語も日本語も使用するため、英語力(例、20ページ位の英文論文を読んで、理解すること)は不可欠です。
- 2) 卒業生の就職先: メーカー、金融関係、観光、海外企業(例: 石川島播磨重工、アイシン、ブラザー、JTB, JETRO, JST, 全日空、日本航空、ソニー損保、IBM-Japan, Malaysia, Philippines)、国際交流基金、JASSO、日赤、国連開発計画、学校、地方公務員
- 3) 卒業生の大学院進学先: 南山大学、慶応義塾大学、名古屋大学、大阪大学、早稲田大学、London School of Economics and Politics, Syracuse University, Korea University, University of Leeds, University of Pittsburgh, Hong Kong Baptist University, Kingston University, 他

6. 選考方法

第一次選考: プロジェクト・アワーの参加と志望理由書

第二次選考: 理由書と面接